プレスリリース

報道関係各位　　令和８年11月５日

令和８年度
遠山椿吉記念 第10回 食と環境の科学賞
遠山椿吉記念　第10回 食と環境の科学賞 山田和江賞
受賞者決定のお知らせ

一般財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団こころとからだの元氣プラザ

一般財団法人東京顕微鏡院と同法人の保健医療部門をルーツとする医療法人社団こころとからだの元氣プラザは、「遠山椿吉記念 第10 回 食と環境の科学賞（以下「遠山椿吉賞」）および「遠山椿吉記念 第10回 食と環境の科学賞 山田和江賞（以下「山田和江賞」）」の受賞者を下記のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。

記

【遠山椿吉賞】

受賞者	**杉本 直樹（すぎもと なおき）氏（57歳）**
ご所属	**国立医薬品食品衛生研究所　食品添加物部　部長**
テーマ名	**「標品を必要としない革新的定量分析法（qNMR/RMS法）の開発と，食薬の安全安心を支えるグローバルスタンダードの構築」**

【山田和江賞】

受賞者	**山崎 聖司（やまざき せいじ）氏（38歳）**
ご所属	**大阪大学　産業科学研究所　准教授**
テーマ名	**「耐性菌の薬剤排出ポンプ阻害による新規抗菌戦略に関する研究」**

（所属、年齢は 2026 年 4 月 1 日現在）

授賞式（記念講演・レセプション）は令和９年２月９日（火）都内で開催いたします。

以上

報道機関からのお問合せ先：
公益事業室　担当　飯島、川﨑　℡03-5210-6651　メール：koueki@kenko-kenbi.or.jp

（参考資料）

遠山椿吉賞について

平成 20 年度、一般財団法人東京顕微鏡院の創業者である医学博士遠山椿吉の生誕 150 年、没後 80 年を記念して創設した顕彰制度です。

日本の公衆衛生において、人びとの危険を除き、命を守るために、先駆的かつグローバルな視点で優れた業績をあげて社会に貢献する研究を行った個人または研究グループに対し顕彰し、賞状・記念品および副賞 300 万円を贈呈します。

山田和江賞について

平成 27 年度に、故山田和江名誉理事長・医師の、50余年にわたる貢献を記念して創設した、若い研究者を支援する顕彰制度です。

40 歳以下（応募年の 4 月 1 日現在）の遠山椿吉賞の応募者の中から、その優秀な研究成果を顕彰するとともに、研究の更なる発展を奨励する目的で、賞状・記念品および副賞100 万円を贈呈します。

※両賞とも、「食と環境の科学賞」と「健康予防医療賞」を設け、各年で選考顕彰しています。

創業者 遠山椿吉（とおやま ちんきち）

安政 4（1857）年、山形県生まれ、東京大学医学部において別課医学を修めた後、山形県医学校長心得などを歴任、明治 21（1888）年、東京医科大学撰科に入学し、衛生学および黴菌学を研究。明治 23（1890）年 1 月、帝国医科大学国家医学科に入学、同年 4 月卒業証書を授与されました。明治 24（1891）年、東京顕微鏡院の前身である東京顕微鏡検査所を創立。かたわら東京慈恵医院医学校（東京慈恵会医科大学の前身）講師、東京市衛生試験所長などの職を兼ねました。特筆すべき業績は、東京顕微鏡学会の創立、ペスト菌の研究、脚気の治療方法の研究、東京の水質管理を担い、水道の衛生管理に尽力しました。また保健部を新設し、予防医療を展開するなど多岐にわたります。機関紙『顕微鏡』『東京顕微鏡学会雑誌』を主宰し、医事衛生に関する数多くの著書や短歌を残し、華道、庭園学などについても著述しています。亡くなる 1 年前にそれまでの人生を振り返り、思想哲学をまとめ『人生の意義と道徳の淵源』を上梓しました。昭和 2（1927）年、東京顕微鏡院を財団法人とし、初代院長に就任しました。昭和 3（1928）年 10 月 1 日遠逝。享年 71。